

留学先：The University of Findlay

氏名： 加藤 裕樹

【はじめに】

フィンドレーの生活ももう少しで3ヶ月が終わります。この報告書を書くたびに、1ヶ月が過ぎたのだなと実感しています。今回の報告書では、先月紹介しきれなかったフィンドレーでの授業、そして、学校外で私が行っている活動について紹介していきたいと思います。

【Classes in UF (Part 2)】

前回の報告書では、Phonics、Ethnicity、Spanish の3つの授業を紹介しましたが、今回はそれ以外の2つの授業、Writing Review for Non-Native Speakers と Experiences in Japanese を紹介します。

Writing Review for Non-Native Speakers はその名の通り、英語を母国語としない人用の授業です。英語で書かれた記事を読んでそれを分析して Paper 書くということをしています。個人的にはよく書けていると思って先生に提出しているのですが、先生からすると私の主張が分かりにくいらしく、何度も直させられます。このライティングの授業は、日本に帰ってから卒業論文を英語で書くときにも必ず役に立つと思うので、しっかりとこれからも受けたいと思います。

そして、Experiences in Japanese という授業では、半分が日本人の留学生、もう半分が日本に興味があるアメリカ人の学生が集まって授業をしています。お互いの文化のことを教えあったり、いろんなアクティビティと一緒に参加したりしています。つい最近、日本にあるコンセプトをアメリカ人と一緒にグループでプレゼンしました。私たちの班は「本音と建前」がテーマでした。自分では分かっているつもりだったのですが、それを英語で、しかも日本文化の背景知識のない人に紹介するのはとても難しいものでした。それと同時に、もっと日本のことも知らないといけないと改めて実感しました。



【小学校訪問】

毎週水曜日に小学校訪問してボランティアをしています。幼稚園児と1年生の合同クラスに入って、授業を見学したり、子どもの活動の手伝いをしたりしています。初めて小学校に行ったときは、本当に衝撃的でした。日本の教育現場とこれほど違うのかと感じさせられる点がいくつもありました。まず大きく違うのは、低学年は教科書がないということです。先生が全てカリキュラムを組みます。そして、詩や絵本などを教材として使用します。リーディングをするときは、子どもたちは椅子に座るのではなく、カーペットに座ります。何か物を書くときは、机を使っても良いし、カーペットに寝転がって書いても良いみたいです。日本の学校では考えられないことが多々起こるアメリカの学校です。もっともっといろんなことを吸収して、日本でも使えることは、自分が教師になったときに取り入れていきたいと思います。



【ハロウィンパーティ】

10月の終わりといえば、ハロウィンがありました！いろいろなパーティに参加して、たくさんの国の人たちと関わることができました。ちなみに私はブルーマンになりました。写真を掲載しておきます。



ではまた来月の報告書で。